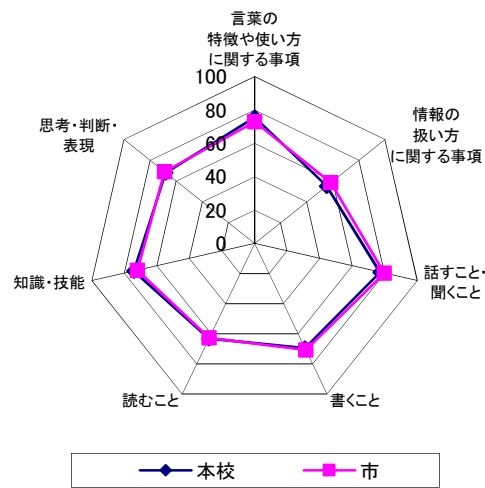


宇都宮市立城山中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.6	73.0	75.5
	情報の扱い方に関する事項	55.2	58.5	59.0
	話すこと・聞くこと	77.1	79.8	75.9
	書くこと	69.4	70.7	71.7
	読むこと	63.1	62.8	62.5
観点別	知識・技能	74.2	72.0	74.4
	思考・判断・表現	68.1	69.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

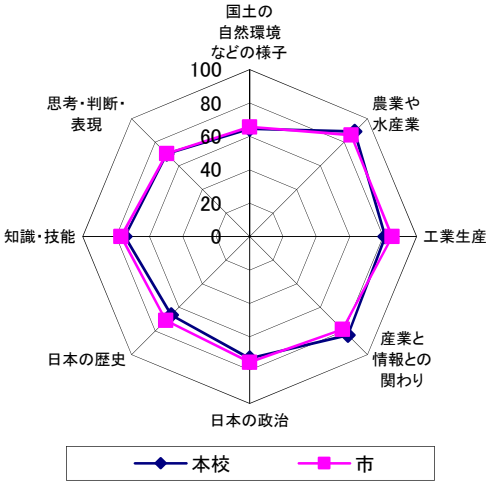
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○市の平均正答率よりも2.6ポイント高い。5年生で学習した漢字の書き取りの正答率は、すべて市の平均を上回っている。 ●敬語の使い方での誤りが見られた。尊敬語と謙譲語の区別がついていないので、誤った日本語になってしまっている。	・尊敬語と謙譲語の扱いについては、日常生活の場面で使用しながら正しい使い方について理解を深められるようにする。特に外部へのお礼のお手紙等、相手を高めたり自分を低めたりする使い方が必要な場面で指導をしていく。
情報の扱い方に関する事項	●資料を活用して情報を選んだり、文意から伝えたいことを考えたりして文章をまとめる問題での正答率が低かった。	・資料の活用をする活動(読み取りや書く活動)を通して活用力を身に付けさせるとともに、つなぎ言葉(接頭語)と文末から、文章の構成やまとめ方についての力が身に付けられるよう、読むことや書くことの活動と関連を図って指導をしていく。
話すこと・聞くこと	●市の平均正答率よりも2.7ポイント低い。 ●話の内容を明確にするための話し手の工夫を捉える問題での正答率が低かった。また、話合いの際に、それぞれの意見をまとめて相手に伝える言葉を考え、整理する問題での正答率も、市の平均と比べて低かった。	・話合い活動を行う際、どのような手順で話したらよいのか、また、相手に自分の考えが明確に伝わるようにするにはどのようにしたらよいか確認するとともに、それぞれの発言を整理し、話合いの内容が理解できるようにしていく。
書くこと	○2段落構成で書いたり、主張に対する理由を述べたりする観点での正答率は、市の平均と比べても高くなっている。 ●指定された長さで文章を書くこと、相手の意見に対しての反論を書くことでの正答率が、市の平均を下回った。	・文字数や段落数などの制限を設けるなど、条件を与えて作文をする活動を意図的に設けていき、書くことへの抵抗がなくなるようにしていく。
読むこと	○市の平均正答率よりもやや高い値となっている。説明文での論の進め方への理解がよくできており、市の平均と比べても約8ポイント高い。 ●物語の全体像を捉えることや、登場人物の心情について描写を基に考える問題での正答率に課題が見られた。	・物語文においては、登場人物の心情を表す描写に着目させるために、物語中の変化、背景描写、比喩など、物語の中にある様々な叙述に気付けるよう、丁寧な読み取りを行っていく。

宇都宮市立城山中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	64.6	65.7	67.0
	農業や水産業	89.1	86.1	77.5
	工業生産	81.3	85.4	76.7
	産業と情報との関わり	83.3	78.6	69.6
	日本の政治	72.9	75.2	65.8
	日本の歴史	66.4	71.1	69.1
観点別	知識・技能	74.8	77.0	72.8
	思考・判断・表現	70.1	70.3	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

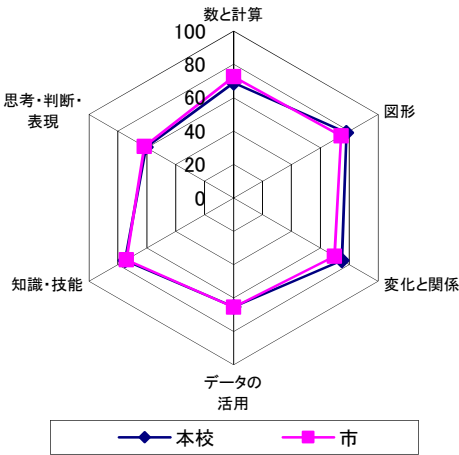
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○日本の周辺の海洋名を答える問題における正答率は、市の平均正答率を上回っている。 ●森林を守るための間伐の理由について問う問題での正答率は52.1%であり、市の平均と比較しても15ポイント低い。	・自然環境の領域では、林業の仕事についての理解に課題が見られた。産業に関わる学習の中で、子どもたちが身近に感じられなかった内容なので、じっくり課題について考えさせることで理解が深まるようにしていく。
農業や水産業	○平均正答率は、市の平均を3ポイント上回っている。米作りの作業や食料生産の地図について、グラフに示されていることを正しく読み取れている。 ●水産業における国内生産高と輸入量の変化について、二つの折れ線グラフから分かることを正しく選択する問題での正答率は、市の平均正答率より約5ポイント低かった。	・グラフの読み取りについては、縦軸と横軸が何を表しているのか、どのような変化をしているのかだけでなく、そこから分かることが読み取れるよう、他の領域の学習場面でも資料活用を技能を高めながら、思考力を育てられるようにしていく。
工業生産	○工業製品の種類についての理解は高く、工業の種類について分類して考えられている。 ●市の平均正答率と比べて約4ポイント低い。電気自動車とガソリン車について、車の部品の役割と性能から、電気自動車の特徴を考える問題での正答率が低かった。	・資料にある文や図から、正答に迫ることのできる問題は多い。今回の問題でも、資料の中にヒントがたくさん隠されていたので、資料を丁寧に読み解く力を育てていきたい。また、工業の領域では、自動車をはじめ機械を扱った問題が見られることから、難しい言葉や漢字ばかりが並ぶ。用語等の基礎的な知識は確実に覚えられるようにしていきたい。
産業と情報との関わり	○市の平均正答率と比べて約5ポイント高い。放送、新聞などに着目して情報産業の役割や責任の大きさについて捉え、判断することができている。	・意図的に各情報メディアの特色について復習したり、メディアの情報を利用する際の注意点を確認し合ったりする。新聞やテレビ、インターネットでの情報を取り上げ、情報産業や情報化社会の中で生活している自分の問題として捉えられるようにしていく。
日本の政治	○裁判に関わる問題での正答率は、市の平均正答率を上回っている。 ●国会の働きを問う問題での正答率が、市の平均を15ポイント下回っており、十分理解できていない。	・三権分立の仕組みとそれぞれの機関の役割については、単元テストでも理解が不十分であった領域であるため、朝の学習の時間や家庭学習などの時間を活用して、定期的な復習が必要である。
日本の歴史	○縄文から平安時代までの正答率は、市の平均と比べてやや高い値となっている。 ●平清盛と源頼朝について、それぞれの時代にあったことや人物に関わる問題での理解が低い。また、鎌倉時代の主従関係における御家人が与えられるものについて正しく解答ができていない。	・歴史上の人物が何をしたのか、どういう立場だったのか、どんな時代背景であったかなど、時代が進むごとに覚えることが増えるため、混同してしまっている。新しい人物が登場した際は、以前までの違いと比較させることで理解を深めていきたい。

宇都宮市立城山中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	68.9	72.6	71.6
	図形	78.1	74.4	72.0
	変化と関係	75.0	69.8	62.6
	データの活用	65.3	65.5	59.1
観点別	知識・技能	75.0	74.1	68.9
	思考・判断・表現	60.7	61.6	63.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

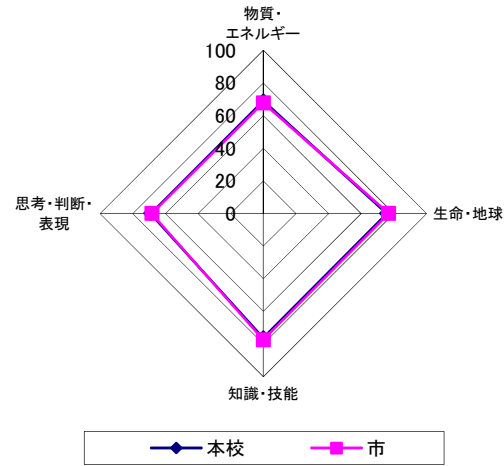
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○分数の乗法、除法での正答率は約9割となっており、市の平均正答率と比べても高い。 ●小数÷小数では、商の桁数が増えるほど正答率が大きく下がっている。 ●通分をする分数のたし算での正答率が、市の平均より約20ポイント低い。 ●文章や図で説明した式を正しく選択する問題での正答率が低い。	・小数のわり算では、割り切れるまで計算、余りを求める計算、概数にする計算、空位のある計算など、様々な問題に取り組ませ、計算力を高められるようにする。また、通分が苦手な児童が多くみられるので、倍数、約数、約分などの計算も素早くできるよう習熟を図っていく。
図形	○合同な三角形の作図の正答率が9割に近い値となっており、市の平均正答率を約10ポイント上回っている。図形に関わる正答率も、市の平均と比較して高い。 ●三角形の内角の和について十分理解できているが、正多角形になったときの角度を求める問題での正答率は50%を下回っている。基本的な知識を活用する問題での課題が見られる。	・図形に関する知識は十分あることから、それを活用した問題を解く力が付くよう、習熟を図っていく必要がある。また、拡大や縮小、対称の図形を作図する時間を設け、確実に書くことができるような力を付けさせてく。
変化と関係	○変化と関係に関わる領域での正答率は、市の平均より5ポイント以上高い。特に速さを求める問題での正答率が高く、速さや道のり、時間の関係をよく理解できている。変化と関係に関わる問題の全てで平均正答率を上回っている。	・速さの問題では、単位がそろっていないと答えが全く違うものになってしまうことから、単位の学習との関連を図って習熟していく。特に単位については変換が苦手な傾向があるので、いろいろな問題に取り組ませながら素早く解く力も付けたい。
データの活用	○データを活用する問題での正答率、最頻値等の用語の理解は高くなっている。 ●折れ線グラフから読み取れることを選択する問題での正答率が市の平均正答率よりも10ポイント以上低い。また、グラフを基にした説明が正しいか正しくないかを説明する問題の正答率は27.1%であった。	・複数のグラフを比較して読み取ることは総合的な算数の力が必要である。特に、基準となる数や比較する量によって、割合が変わってくる。また、比較したり分析したりする力も必要になってくるので、複合的な問題を解かせたり、社会科の資料を活用したりするなどして、算数力を高めたい。

宇都宮市立城山中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	68.9	67.8	64.1
	生命・地球	75.6	76.7	78.3
観点別	知識・技能	76.3	77.4	78.3
	思考・判断・表現	69.0	68.3	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○平均正答率は、市の平均よりも1.1ポイント高い。特に、電磁石を強くする方法や性質についてよく理解できている。また、二酸化炭素の性質やものが燃えるときの仕組みなど、ものの燃え方に関わる問題の正答率はどれも市の平均を超えており、よく理解できている。 ●ろ過をする方法として正しいものを選択する問題での誤答が多く見られた。市の平均正答率よりも約6ポイント低い。	・実験や観察をする際には、得られた結果を基に考察することで、自然・科学の事象についての理解が深まる。また、実感的理解が得られる活動もしていく。さらには、実験器具を扱う場面において、正しい扱い方や安全面での指導を行い、実験用具への知識や技能を身に付けていくことも必要となってくる。知識を高めるために、習熟用のプリントを活用していくことも行っていく。
生命・地球	○日光を当てた後の酸素と二酸化炭素の量について、気体検知管が示す数値から正しいものを選択する問題での正答率が、市の平均よりも約8ポイント高い。 ●天気の変化に関わる単元での正答率が全体的に低い。特に春の雲の動きとして、どの方向に移動していくかを問う問題では、市の平均正答率53.2%に対して、本校正答率は20.8%であった。	・天気の学習では、雲の動きを中心に、どのように天気が変わるのか、雲があるところの雨量はどうなるのか、台風はどのように移動するのかなど、気象情報やインターネットでの画像などを活用して理解を深めていく必要がある。また、生活の中で天候の変化が見られるときなどを取り上げ、天気や気候に対する関心を高めていく。